

1.マイワシ漁獲状況概要

2月のマイワシの水揚量は前年の3倍であった。久慈から石巻における主要7港のマイワシの1月の水揚量は5,519トンで前年同期(3,583トン)の約1.5倍であった(表1)。小名浜から銚子における主要4港のマイワシ水揚量は23,497トンで前年同期(5,935トン)の約4倍であった(表2)。

表1 三陸海域におけるマイワシの水揚量

水揚港	2019年2月 (トン)	2018年2月 (トン)	前年比
久慈	—	—	—
宮古	—	0	—
釜石	—	—	—
大船渡	524	1,157	0.45
気仙沼	—	—	—
女川	1,429	1,428	1.00
石巻	3,566	998	3.57
合計	5,519	3,583	1.54

(出典：おさかなひろば)

表2 常磐海域におけるマイワシの水揚量

水揚港	2019年2月 (トン)	2018年2月 (トン)	前年比
小名浜	455	—	—
大津(茨城)	288	—	—
波崎	2,665	499	5.34
銚子	20,089	5,436	3.70
合計	23,497	5,935	3.96

(出典：おさかなひろば)

2.マイワシの体長組成

金華山で今年2月上旬に定置網によって水揚げされたマイワシの体長組成は11～13cm(1歳魚、2018年級群)が主体であり、前年同期では13～14cm(1歳魚、2017年級群)であった(図1)。茨城県沖で今年2月上旬にまき網によって水揚げされたマイワシの体長組成は18～20cm(2歳魚、2017年級群)が主体であり、前年同期では14～16cm(1歳魚、2017年級群)であった(図2)。水揚物の体長組成について茨城県沖では前年と違いが見られた。

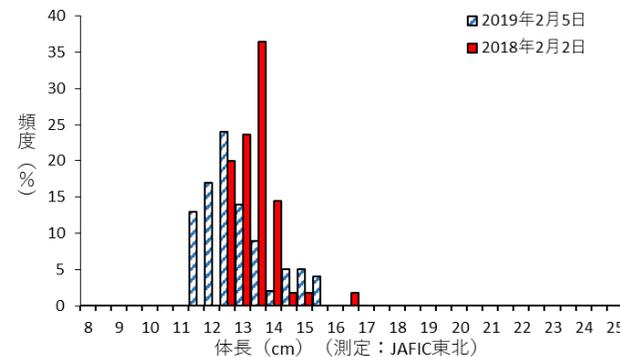


図1 2月上旬の金華山沖における定置網水揚物体長組成の前年比較

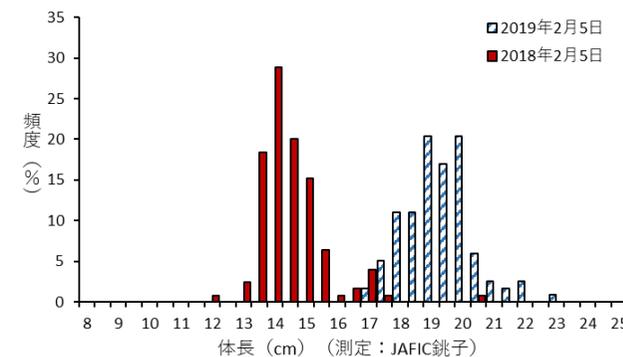
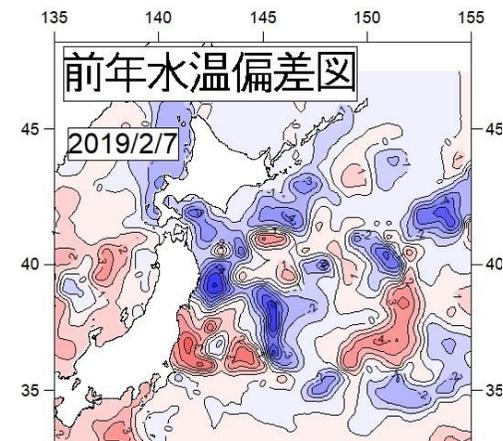


図2 2月上旬の茨城県沖におけるまき網水揚物体長組成の前年比較

3.海況の特徴



(青色部分は前年よりもマイナス、赤色部分はプラス)

図3 2月7日における東北沖の表面水温前年偏差図

三陸北部沿岸は前年よりも3～4℃低く、三陸南部～常磐沿岸は1～2℃高かった。

4.まとめ

2017年級、2018年級の豊度が高いことから、漁獲量は三陸海域、常磐海域ともに前年を上回った。久慈から宮古では水揚げが見られなくなり、石巻が全体の水揚量の半分以上を占め、石巻の1月の漁獲量を上回った。これは1月に比べて魚群が南下した影響であると考えられる。また、今年の2月に茨城県沖で水揚げされたマイワシは2歳魚が主体であった。前年は2月上旬には1歳魚が主体であったものの、2月中旬以降は2歳魚が主体となっていた。三陸北部沿岸の水温が前年よりも3～4℃低かったことから、前年に比べて2歳魚の南下が早かったと考えられる。3月はさらに東北から漁場が南下し、常磐海域での水揚げが中心になると考えられる。

(漁海況部)